

# 我が国周辺漁業資源調査

山川 卓・山田浩且・石川貴朗・久野正博

## 目 的

我が国周辺における重要漁業資源の資源量評価、動向の予測、最適管理手法の検討のために必要な基礎資料を収集するため、水産庁の「我が国周辺漁業資源調査委託事業実施要領」に基づき調査を実施する。

なお、各漁業資源の資源量評価、動向予測等については、水産庁中央水産研究所によってとりまとめられるため、ここでは本県が委託を受けている6魚種（マイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・サバ類・マアジ・スルメイカ）の本県沿岸域における本年度の漁況特性についてとりまとめる。

## 方 法

### 1. 漁場別漁獲状況調査

県下の中型まき網13ヶ統、沖合底曳網1ヶ統から漁獲成績報告書（月報）を徴収し、漁場別漁獲動向を把握した。

### 2. 水揚げ調査

県下主要水揚げ港（白子・河芸・安乗・波切・片田・和具・贄浦・奈屋浦・神前浦・錦・紀伊長島・九木の12港）において、日別、漁業種類別、魚種別漁獲量を調べた。

### 3. 生物測定調査

県下主要港に水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、サバ類、マアジについて魚体測定を行い、漁獲物の生物特性を把握した。

### 4. 卵稚仔分布調査

毎月1回、伊勢湾および熊野灘の所定の定点（計12定点）において改良型ノルパックネットの鉛直曳きを行い、調査対象種の卵稚仔出現動向を把握した。

## 結 果

調査結果に基づく調査対象魚種の本年度の漁況特性は以下のとおりである。なお、ブリの漁況については、イナダ、ワラサ、ブリは本事業報告の新漁業管理制度推進情報提供事業Ⅲ（定置網漁獲統計調査）の項で、モジャコは平成10年度漁海況予報関係事業結果報告書でそれぞ

れ詳細に報告されているのでここでは省略する。

### 1. マイワシ

熊野灘主要港（奈屋浦・贄浦・錦・紀伊長島）における1999年度（平成11年度）の中型まき網による漁獲量は5,791トンで、前年度（1,490トン）の約4倍を示し、低水準で推移する近年では高い水準に達した。6月まではマアジやサバ等にごくわずかに混獲される程度で推移し、まとまった漁獲はほとんどなかった。その後も7月中旬の一時期に体長18～19cmの中羽（1歳魚、1998年級群）が、10月下旬～11月上旬にかけての熊野灘沿岸への内側反流波及時に体長16～19cmの小・中羽（0～1歳魚、1998～1999年級群）がややまとまって漁獲されたものの、全般に低調な漁況で推移した。ここ数年、熊野灘では夏季（7～9月）に0歳魚が来遊し、比較的安定した漁場が形成された。しかし、今期はその来遊量も少なく、漁場形成はほとんどみられなかった。

1999年12月15日頃からマイワシの漁況が急変した。当初、漁場は大王埼沖（熊野灘北部）に形成された。12月下旬には熊野灘南部沿岸を主体に漁場が形成され、以後3月末頃まで同海域を中心に安定した漁獲が続いた。2000年1～3月の主要港における中型まき網による漁獲量は4,811トンに達し、マイワシ資源の減少が顕著となった1993年以降では最高の水準に達した。期間を通じ、漁獲主体は体長19～21cmの大羽群（1998年級の2歳魚）であった。1月の漁獲物のKG値は低かったが（1月7日標本♀の平均KG=1.8、1月12日標本♀の平均KG=1.6）、2月には急増し（2月17日標本♀の平均KG=4.6）、3月には産卵間近と思われる成熟度の高い個体が大半を占めた（3月15日標本♀平均KG=5.9）。当該海域が産卵場として機能している可能性が示唆された。期間中、黒潮流路の影響で熊野灘沿岸には頻繁に暖水波及がみられ、水温は平年値より2～3℃高めで推移し、マイワシの漁場形成にとって好適な環境が維持されていた。

一方、伊勢湾（0歳魚を漁獲主対象）では、前年同様、ほとんど漁獲はなかった。白子港に10月2トン水揚げがあったのみであった。

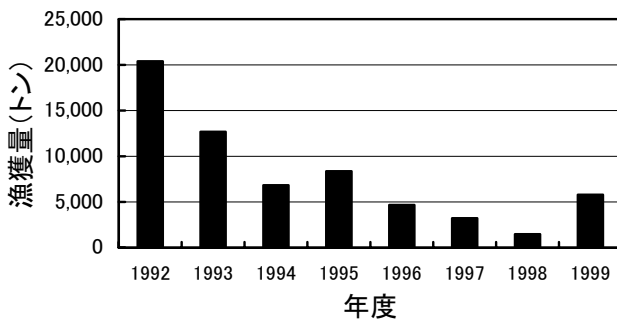


図1 熊野灘主要5港マイワシ漁獲量 (中型まき網)

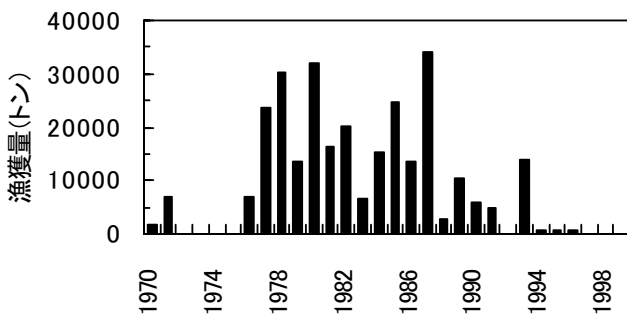


図2 伊勢湾主要2港マイワシ漁獲量

## 2. カタクチイワシ

熊野灘主要港（奈屋浦・賛浦・錦・紀伊長島）における1999年度（平成11年度）の中型まき網による漁獲量は1,369トンで、豊漁となった前年度（3,791トン）には及ばないものの、比較的高水準で経過した。4～12月までの間はサバ類やマアジにごくわずか混獲される程度にとどまった。ここ数年、熊野灘では1～3月に産卵親魚群（成魚大型群）が高い水準で来遊し、盛漁期を形成している。2000年1～3月の熊野灘主要港における中型まき網の漁獲量は1,352トンで、大豊漁となった前年同期（3,500トン）には及ばないものの、近年では比較的高水準で推移した。同時期の熊野灘沿岸では、単価の良いマイワシが好漁となり、カタクチイワシに漁獲努力が向くことが少なかったにも係わらず高水準の漁獲があったこと、同時期好漁を呈したカツオ曳縄漁の漁業者から、熊野灘沿岸一体でかなりのカタクチ魚群が分布しているとの情報を得たこと等を考慮すると、来遊資源量はかなり高い水準であったと推察される。同海域でカタクチイワシの卵が前年並みの高い水準で採集されたことがこのことを裏付けている。

一方、伊勢湾では7月22日からバッチ網によるイワシ

漁が解禁となった。伊勢湾主要2港（白子・河芸港）における1999年漁期の漁獲量は16,303トンで、好漁となった前年漁期（7,400トン）の約2倍、近年では1989年（17,116トン）に次ぐ豊漁となった。漁期当初からほとんど漁が途切れることなく安定した漁獲が続いた。漁獲物の主体は7月で体長7cm前後、8月で7～8cm、9月で8～9cm、10月で8～10cm、11月で9～11cmの未成魚～成魚群であった。体長組成の推移からほぼ同一年級群（1999年の春季を中心とする発生群）を漁獲対象としていたようである。1999年の春季には太平洋岸の広い範囲で極めて高水準の本種の卵、稚仔が採集され、渥美外海～遠州灘でのシラス漁も好漁に推移した。伊勢湾で豊漁をもたらしたカタクチはこれらに由来するものと考えられた。熊野灘、伊勢湾における漁況経過をみる限り、カタクチイワシの資源量は依然高水準にあると推察される。

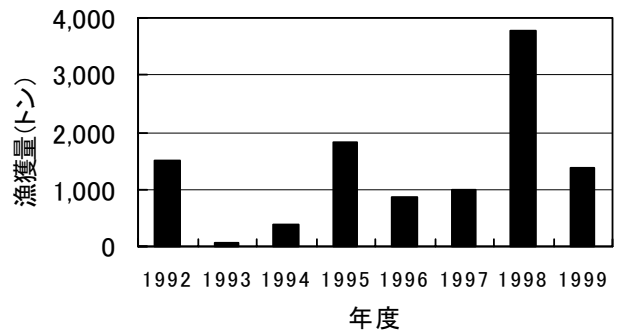


図3 熊野灘主要5港カタクチイワシ漁獲量 (中型まき網)

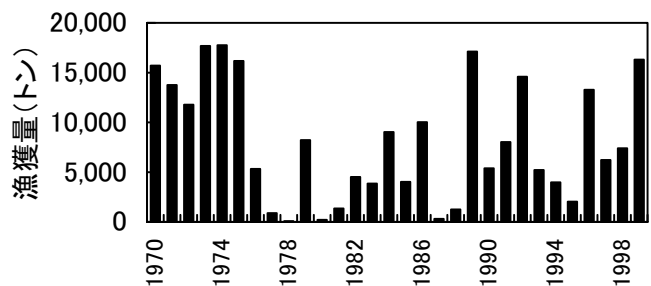


図4 伊勢湾主要2港カタクチイワシ漁獲量

### 3. ウルメイワシ

熊野灘主要港（奈屋浦・錦・紀伊長島）における1999年度（平成11年度）の中型まき網による漁獲量は998トンで、豊漁となった前年度（915トン）をさらに上回る近年最高の漁獲があった。漁獲の大半は、黒潮が大きく蛇行し、黒潮内側反流が熊野灘沿岸に顕著に流入した10月下旬～11月に集中した。特に11月には熊野灘主要港の月間漁獲量としては過去最高の571トンに達した。この時期の漁獲物は体長16～17cmの1999年級群（冬季発生群）主体に、体長19～20cmの親魚群が混獲された。

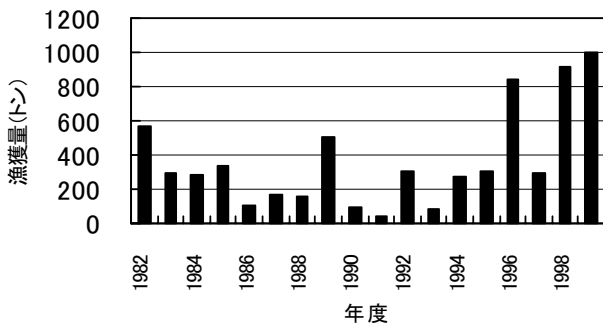


図5 熊野灘主要3港ウルメイワシ漁獲量 (中型まき網)

### 4. サバ類

熊野灘主要港（奈屋浦、贄浦、錦、紀伊長島）における1999年度（平成11年度）の中型まき網によるサバ類の漁獲量は14,399トンと昨年度の3,937トンを大きく上回り（図5）、近年では大きな卓越年級群であったゴマサバ1996年級群の豊漁による1996年度（19,304トン）、1997年度（17,150トン）の漁獲量に次ぐ水準となった。4月～7月の漁獲量は944トンと近年で最低の水準であったが、8月以降の漁獲量は8月1,324トン、9月4,431トン、10月3,153トンと豊漁であった。10月20日頃以降に黒潮反流が熊野灘沿岸に接岸して一帯が暖水で覆われるようになってからは、沿岸域への魚群の来遊は散発的になり、漁獲量は11月373トンと一旦低水準になったが、12月～翌3月の漁獲量は合計で4,174トンと再び高水準となった。尾叉長組成の推移等から判断すると、8月以降の漁獲の主体はゴマサバ当歳群(1999年級群；2000年1月以降は明けて1歳群)であり、したがって全体として今期の漁獲のほとんどがゴマサバ1999年級群で占められていたことになる。奈屋浦漁港でのサバ類全体に占めるゴマサバの混獲比は1999年度漁期全体で96.6%であった。一方、マサバについては月によって若干混獲がある程度であり、散発的な漁獲に終始した。

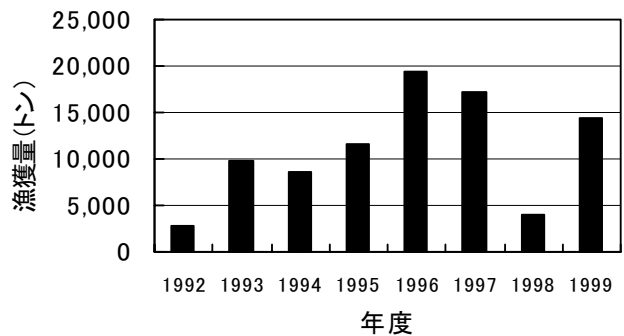


図6 熊野灘主要5港サバ類漁獲量 (中型まき網)

### 5. マアジ

1999年度における熊野灘主要港（奈屋浦、贄浦、錦、紀伊長島）の中型まき網によるマアジの漁獲量は4,652トンで、比較的好漁だった前年度（3,593トン）を上回り、近年では最高の漁獲量の一昨年度（4,910トン）に次ぐ値となった。4、5月は合計で995トンと比較的好漁であったが、6～9月の漁獲量は合計で657トンと低調になった。このときの漁獲の主体は1～2歳魚であった。8月以降はそれまでの定置網に加えてまき網漁業へも当歳群の加入が始まった。熊野灘へ黒潮系暖水の流入が始まった10月初旬以降は当歳群を主体に好調な漁獲が持続した。この結果、10月の漁獲量（1,739トン）は1981年以降の月別漁獲量のうち、1986年の10月に次ぐ豊漁となり、また、10月、11月の合計漁獲量（2,382トン）は1981年以降で最高となった。

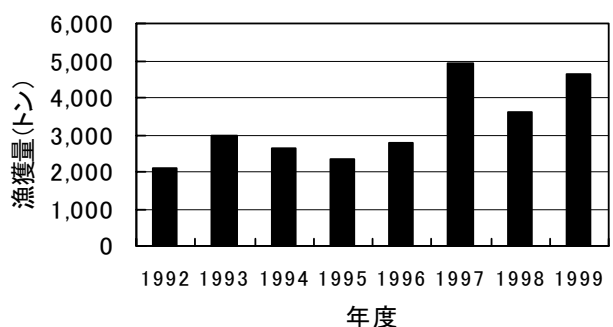


図7 熊野灘主要5港マアジ漁獲量 (中型まき網)

### 6. スルメイカ

和具港(県下最大のスルメイカ水揚げ港)における1999年5～9月の一本釣りによる総漁獲量は192トンで、低調であった前年同期（131トン）、一昨年同期（146トン）の値は上回ったものの、1984年～1998年の平均値（246

トン)には及ばない、やや低調な年であった(図7)。例年、盛漁期となっている6月、7月の漁獲量が低かった(合計で43トン)ことがその主な原因で、9月に90トンと比較的好漁を示したものの、全体としては低調に終了した。

**関連報文**

- ・長期漁海況予報(中央ブロック)No.109 111, 中央水産研究所
- ・平成11年度漁海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集), 三重県科学技術振興センター水産技術センター

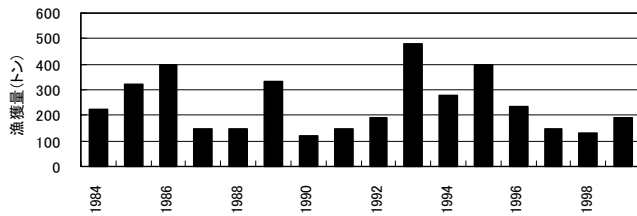


図8 和具港におけるスルメイカ漁獲量  
(一本釣り, 夏イカ漁(5~10月計))